

香良洲消防団紹介



津市香良洲消防団長 松島 昇

当消防団は、昭和二十四年一月に矢野村警防団から香良洲町消防団に改組し、以来五十七年の歴史を重ね、日夜、あらゆる災害から市民の生命、身体、財産を守るため、団員が一丸となって頑張つてまいりました。

香良洲町は、周囲を雲出川と海に囲まれた典型的な三角デルタ地帯で、海岸線一帯は、「伊勢の海」県立自然公園に属し、その白砂青松の海岸は海水浴、楯干し、潮干狩りなど、県内外からの人々で賑わいます。

今、騒がれている東海・東南海・南海などの大地震が、この地方を襲つたならば、隣接する雲出伊倉津町、また松阪市三雲町とを結ぶ橋の倒壊が予想され、その結果、「陸の孤島」となる恐れがあり、また典型的な三角州の地形であるため、過去

幾度となく水害に見舞われた苦い経験を持っています。したがって防火活動は言うにも及ばず、水防活動についても消防団の重要な活動であり、毎年、夏から秋にかけての出水期には緊張した日々が続きます。そのため消防団は地区の自主防災組織や町民全体とともに協力し、日頃から実践的な訓練を行っています。



消防出初式での行進風景



さらに平成十五年四月に採用した女性消防団員は、救命講習普及員の資格を取得し、女性独自の細やかな心遣いにより、町民全体に救護活動の普及に努めています。また大地震に伴う津波を想定した避難訓練も行っています。

今回の合併により、津市香良洲消防団となり、現在、さまざま

まな問題を抱えながらも新しい時代に向かつて、消防技術の向上と市民が安心して暮らせる街づくりを目指して、昼夜を問わず全力で取り組んでいます。

救急フェアを開催

救急医療週間の最終日となる九月九日の救急の日に、三重県看護協会津支部の協力を得て、津サティで救急フェアを開催しました。救急救命士や女性消防団員による応急手当指導に大勢の買い物客が訪れ、人工呼吸などの心肺蘇生法やAEDの使用方法などを体験していただきました。

また、同支部の看護師による健康相談や介護相談が行われ、血圧測定・骨密度測定コーナーもたいへん賑わっていました。当消防本部では、各署



心肺蘇生法を体験する女性



血圧測定をする看護師

や管内の地域で救命講習会を行い、正しい応急手当を習得してもらうことで、少しでも多くの人命を救いたいと考えていますので、皆様もご理解とご協力をお願いします。

救急医療を考える集い

九月十日、久居総合支所と保健センターにおいて、久居一志地区医師会主催の救急医療を考える集いが開催されました。



講演をする大野医師

大野秀和医師（三重中央医療センター）は、「救急を要する脳神経疾患・外傷」、市川健救急救命士（久居消防署一志分署）は、現状の救急医療体制について

と銘打って講演し、参加者は救急医療の大切さを再認識していました。

また、応急手当の実技指導や保健センター職員による血圧や血糖値などの測定コーナーも設けられました。



応急手当の実技指導をする救急救命士